

トピックス

IEC (国際電気標準会議) 鉄道用電気設備とシステム
専門委員会 (TC9) の第58回総会が開催されました

IEC (国際電気標準会議) / TC9 (鉄道用電気設備とシステム専門委員会) (以下、IEC/TC9) の第58回総会が、東京・千代田区のステーションコンファレンス万世橋で2018年11月19日から22日の4日間にわたり開催されました。鉄道総研は、IEC/TC9の国内審議団体を務めており、今回の総会が日本で開催されるに当たり、開催国の審議団体としてその運営を担務しました。

この総会には、日本のほか、オーストリア、中国、チェコ、フランス、ドイツ、インドネシア、イタリア、韓国、ルクセンブルグ、ロシア、スウェーデンおよびイギリスの13か国から51名の参加者がいました。

総会は、Gianosvaldo Piana Fadin (ジャンスバルド・ピアナ・ファディン) 議長 (イタリア) が、開催国日本への謝辞を述べた後、開催宣言を行いました。

議長の開会宣言に引き続いて、鉄道総研 熊谷則道理事長が歓迎のあいさつを行いました。

本総会は、IECにおける鉄道関係規格のこの1年間の審

議結果やプロジェクトの進捗状況を確認するとともに、新たな規格の検討開始とその審議体制を決定する役割を担っています。

総会では、規格審議状況の報告や新規プロジェクト開始に関する議論が行われ、日本が提案した「交流電力補償装置」の規格化開始を問う投票の開始や、「補助回路用リチウムイオン電池」の規格化を検討するための日本をリーダーとしたグループの新設などを含む、合計40件の決議が採択されました。

このように日本が主導的な役割を果たす新たな規格候補の検討開始が決定したほか、国内で開催されたことから多くの日本の担当者が出席し、直接に審議状況の説明を行ったため、近年多様化している参加国に対して国際標準化に日本が果たしている役割を示すことができました。この会議の成果を、日本の鉄道へのさらなる理解の促進とともに、日本の鉄道技術の海外展開にも役立てていきたいと考えています。



IEC / TC9 第58回総会

トピックス

鉄道総研の職員がUICグローバルリサーチ&イノベーション賞を受賞しました

鉄道総研の職員が国際鉄道連合(以下、UIC)のグローバルリサーチ&イノベーション賞(UIC Global Research & Innovation Awards 2018)を受賞しました。

UICのグローバルリサーチ&イノベーション賞は、鉄道をより魅力的かつ経済的で持続可能なものとし、鉄道輸送を世界的レベルで促進するために、UICの国際鉄道研究委員会(以下、IRRB)の主導により2012年に創設されました。選考委員会はIRRBのメンバーで構成され、「安全/

セキュリティ」、「持続的発展」、「鉄道システム技術」、「鉄道貨物サービス」「旅客サービス」「コスト削減」の6分野に加えて、30歳以下の若手研究者、長年の功労者に対して表彰されます。

授賞式は、2018年12月7日にフランス・パリのUIC本部において行われ、下記の3名の鉄道総研職員が受賞しました。

【受賞者】

○安全/セキュリティ部門

「海底地震観測網の情報を利用した早期地震警報用アルゴリズムの開発」

鉄道地震工学研究センター 地震解析研究室 副主任研究員 是永将宏

○持続的発展部門

「収縮クリープによるPC桁の長期変形予測法」

構造物技術研究部 コンクリート構造研究室 主任研究員 渡辺 健

○コスト削減部門

「電車線非接触測定装置の開発」

電力技術研究部 集電管理研究室 副主任研究員 松村 周



UICグローバルリサーチ&イノベーション賞授賞式 (copyright : UIC / P. Fraysseix)
 松村副主任研究員(前列右1番目)、渡辺主任研究員(前列右4番目)、
 是永副主任研究員(前列右5番目)